



わたなべ ゆま
渡邊 夢万 さん

●赤見小学校 6 年

命の最前線で

病院で働く看護師を、いつも「かっこいいな」「すごいな」と思っていた私は、いつしか看護師になることが将来の夢となっていました。

看護師はかなりの体力が必要だと言われているので、私は体力をつけるために水泳とバレーボールをがんばっています。水泳では栃木県代表として関東大会にも出場しています。

患者さんの心と体を支え、命の最前線で仕事をする看護師になって、たくさんの笑顔を守り多くの命を助けたいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセーじ



子どもたちの長かった夏休みも終わり、またにぎやかな声が学校に戻ってきました。まだまだ厳しい残暑が続いていますが、皆さん体調はいかがですか。

先月は、本市の三大祭りといわれる「ためまふるさと祭り」、「さの秀郷まつり」、「くずう原人まつり」をはじめ、「三疊山大文字焼き」や各町内での納涼祭が盛大に開催されました。特に秀郷まつりでは、今年は天候にも恵まれ、各催しとも多くの来場者にお越しいただき、大いに盛り上がりました。最終日のみこし・おはやし巡行では、昨年中止であったこともあり、大変の活気の中、今年から加わった担ぎねぶたなど計10基のみこしが会場を練り歩き、まつりのトリを飾りました。ご協力いただいた多くの皆さんに心から感謝申し上げます。

さて今月は、市民のスポーツの祭典である市民体育祭が開催されます。球技大会、陸上大会が行われますが、参加される選手の皆さんは、各支部代表として頑張ってください。これから秋に向け各種スポーツ大会が開かれます。何といても健康が第一、1人1スポーツを目標に、「スポーツ立市」の推進に向け、心と体を鍛えましょう。

18日から23日までの6日間、第2次訪英団の団長として英国ロンドンに行ってきます。本市と世界で最も由緒ある「マリルボーンクリケットクラブ」が、今後クリケットを通し、幅広い交流ができるよう友好関係を築いてまいります。後日その模様はお知らせいたします。

これから台風シーズンが到来します。災害に備え、ハザードマップなどを見ていただき、土砂災害、河川氾濫などに十分な注意を払ってください。

岡部 正英



今回の表紙「災害に備えて」 写真：佐野市消防本部の訓練ほか

9月1日は防災の日、また8月30日～9月5日までは防災週間とされています。

本紙4ページ・5ページでは「災害への備え」として、特に注意していただきたいことを掲載しています。防災の日、防災週間を契機として、新たに防災について考え、災害への備えをよろしく願います。

亀山 将司^{まさし}さん (白岩町)

キラリ★

話題の「ひと」

○プロフィール

白岩町で自営業を営む。

25年ほど前からオカリナをはじめ、「高谷オカリナの里」を支えている。



高谷^{たかがい}オカリナの里

皆さんは旧田沼町の中山間地域、野上(白岩町高谷)に、「高谷オカリナの里」があるのを存じでしょうか？このオカリナの里を支えているのが白岩町に住む亀山さんです。

10年ほど前、近くには、谷力^{つとむ}さんがオカリナを製作する工房「風」があり、亀山さんは谷さんがオカリナを演奏するのを楽しみにしていました。亀山さんは谷さんがオカリナ愛好者が集まり、練習や情報交換、発表することができるような場所を探していることを知り、自らの畑を提供し、そこに自費で建物を作り出しました。この建物がオカリナの里のきっかけです。

その後、谷さんは亡くなりましたが、オカリナ愛好者たちはこの施設の会員になり、「力ファミリー^{つとむ}」としてここを中心に活動しています。この施設には現在、ピザ窯などもあり、お客さんをおもてなしすることもあります。

亀山さんは、この会のさまざまな活動の企画や準備、各種イベントのサポート活動に取り組んでいます。毎年5月4日には、オカリナの里で「つとむファミリーコンサート」を

開催し、例年、市内はもちろん、近隣の市町からも多くのファンがオカリナを聴きに来るそうです。また、オカリナの里は「まちの駅 ネットワークさの」に登録しています。亀山さんは駅長として、訪れた人に観光情報の提供や休憩所を提供する「おもてなし」を実践しています。

このほかにもブログで情報発信などを行っている亀山さん。いろいろな地域から人を呼び込み、地元の人を喜ばせているその活動は、中山間地域の活性化にもつながる貴重なものです。これからもオカリナや野上地区、そして佐野市のために頑張ってください。

(市民記者 佐藤 久夫)



毎年5月4日に行われる
「つとむファミリーコンサート」

佐野^{さの}弁^{べん}さい

「ヨカ」「ゲ」という方言は 間もなく消える？

○比較の基準を表す語に(助詞)に、「より」「よいか」があります。これに該当する方言に、「ヨカ」「ヨカモ」「ヨリカ」などがあります。

「今日はだいぶアッチー(暑い)から、どうせ飲むんだら、酒ヨカビールのほうがいいインジャーケ(ではないですか)？」

中・高齢者の多くは、今でもこれらの方言を使っていますが、若くなるにつれてだんだん減る傾向にあります。○動作の対象(相手)を表す語(助詞)に、「に」がありますが、この「に」に該当する方言に「ゲ」があります。「ゲ」は、意味も用法も共通語の「に」と同じですが、ちよつと違う点は、対象となるのが人や動物などで、その他のものには使わないのが普通です。ゲの成り立ちについてはわかっていません。

「こんなにドドメ(桑の実をとったんで、あの子ゲも、それからオメ(お前)ゲも分けてヤンベ(やろう)とモツテサー(思っつね)」

動物などに餌^{えさ}をやる(与える)ときにもゲを使います。「ニヤツトリ(鶏)ゲ、餌やつてクンネケー(くれませんか)」

ゲを盛んに使っていたのは昭和30年代頃までで、その後は次第に減少し始めました。とはいっても、高齢者には今なお使っている人がいます。一方では、「ゲ」を使っていた頃を思い出し、懐かしむ昭和生まれの人にもいます。この「ゲ」が話しことばから消えるのも「遠からずして」ということになるでしょう。(市民記者 森下喜一)

